伊達博物館改築事業基本計画（案）に対する パブリックコメントの募集結果について

1 概要

「伊達博物館改築事業基本計画（案）」は、令和元年7月に策定した「宇和島市立伊達博物館改築事業基本構想」で掲げた、宇和島が誇る歴史文化を安心して後世につなぎ、その魅力を市民はもとより国内外に発信するための施設として、新たな博物館を整備をすることを目的に、現時点における状況を踏まえた中で、基本計画としてまとめようとするものです。

この度、同計画を策定するにあたり、市民の皆さんからの御意見を募集した結果、27人の方から84件の御意見が寄せられました。いただいた御意見等の概要及び御意見等に対する市の対応について、次のとおり公表いたします。

なお、いただいた御意見につきましては、可能な限り今後の取組に生かしてまいります。御意見をお寄せいただきました皆さんの御協力に、厚く御礼申し上げます。

2 意見募集の概要

(1) 募集期間

令和2年10月26日（月）から令和2年11月30日（月）

(2) 募集方法

直接持ち込み、郵送、ファックス、電子メール

(3) 周知方法

広報うわじま令和2年11月号折り込みチラシ、宇和島市ホームページ、文化・スポーツ課、伊達博物館等

3 結果

(1) 意見の提出方法

	提出者合計	27人
内訳	持ち込み	13人
	郵送	1人
	ファックス	3人
	電子メール	10人

(2) 意見等の概要及び市の対応（No.1からNo.36）

- A 基本計画（案）に関すること No. 1～24
- B 改築事業に係る要望 No.25～27
- C その他 No.28～36

目 次

項 目	分類	件数	頁
NO.1 「3 新博物館の基本理念」について	A	2	4
NO.2 「4 新博物館のビジョン」について	A	1	4
NO.3 「6 新博物館の基本方針①展示」について	A	2	5
NO.4 「6 新博物館の基本方針②資料の収集、保管及び研究」について	A	1	5
NO.5 「6 新博物館の基本方針③情報の発信と連携」について	A	1	6
NO.6 「6 新博物館の基本方針④教育普及」について	A	3	6
NO.7 「6 新博物館の基本方針⑤施設の安全と管理」について	A	1	7
NO.8 「6 新博物館の基本方針⑥建設手法とコスト意識」について	A	2	7
NO.9 「7 新博物館の展示計画」展示スペースについて	A	2	8
NO.10 「7 新博物館の展示計画」展示内容について	A	11	8-9
NO.11 「7 新博物館の展示計画」常設展示室について	A	1	10
NO.12 「8 新博物館のゾーニング」建物の構造について	A	1	10
NO.13 「8 新博物館のゾーニング」建物の高さについて	A	2	10 -11
NO.14 「8 新博物館のゾーニング」公開承認施設の必要性について	A	1	11
NO.15 「9 新博物館の規模」について	A	2	12
NO.16 「10 立地」について	A	11	12 -15
NO.17 「11 配置計画」緑の広場について	A	1	16
NO.18 「11 配置計画」新博物館から宇和島城への眺望について	A	2	16
NO.19 「11 配置計画」トイレ設置について	A	1	16

項 目	分類	件数	頁
NO.20 「11 配置計画」モニュメント等について	A	4	17
NO.21 「11 配置計画」駐車場等の安全確保について	A	3	18
NO.22 「11 配置計画」天赦園への出入り口等について	A	1	18
NO.23 「12 事業スケジュール」について	A	1	19
NO.24 計画全体への賛同について	A	5	19
NO.25 改築事業に係る要望 売店・喫茶店等について	B	4	19 -20
NO.26 改築事業に係る要望 イメージキャラクターについて	B	1	20
NO.27 改築事業に係る要望 木材の利用について	B	1	21
NO.28 その他 街なみ保存について	C	1	22
NO.29 その他 ふるさと納税等について	C	2	22
NO.30 その他 各施設との連携について	C	2	22 -23
NO.31 その他 新博物館改築の是非について	C	3	23 -24
NO.32 その他 植物園等の設置について	C	1	25
NO.33 その他 ドッグラン等について	C	1	25 -26
NO.34 その他 宇和島ゆかりの芸術家との連携について	C	1	26
NO.35 その他 地元企業への配慮について	C	4	27
NO.36 その他 天赦園の付随施設について	C	1	27
合 計		84 件	

NO.1 「3 新博物館の基本理念」について

意見等の概要	1	建物は和風を希望します。
	2	建物自体の景観、周辺との景観調和、宇和島城との景観の一体化、開放感のある博物館敷地内への出入りの確保に配慮願いたい。周辺との景観調和は文京地区である事、国道沿いである事、そして現公園の利用者へ考慮などが課題になる。また、宇和島城との景観の一体化は景観および観光の視点から最重要であると認識し、推考して下さい。
市の対応	基本理念として「新しいまちづくりと景観の美しさの象徴となるべき博物館」を掲げているとおり、単なる建物の更新ではなくデザイン性の優れた博物館を目指してまいります。具体的な意匠につきましては今後の設計によるところですが、いずれにいたしましても周辺環境との調和をしっかりと意識しながら取り組んでまいります。	
その他		

NO.2 「4 新博物館のビジョン」について

意見等の概要	1	城山郷土館やきさいや広場など、既存の他施設との違いが見えない。現博物館の展示（企画展示室）+城山郷土館（常設展示室）+きさいや広場といった印象を受けた。役割の区別化や密接な連携はどのように構築していくのか。
市の対応	歴史資料館や城山郷土館をはじめとする他施設との役割の区別化につきまして、今後の新しい博物館における展示計画により再構築する必要性が生じる可能性もあります。 このことにつきましては、新しい博物館における具体的な展示内容の検討に際し、宇和島市の文化施設のあり方として全体的にどうあるべきか、視野を広く検討してまいります。	
その他		

NO.3 「6 新博物館の基本方針①展示」について

意見等の概要	1	展示する品物の名称や作者のみを書いて終わりではなく、その品がどういう風につかわれたか、どういう経緯で伊達家に渡ってきたか等を詳しく書いて欲しい。また、和歌なども、昔の言葉遣い等がわからないことが多いので、書き下すだけではなく、現代語訳文を付けて貰いたい。
	2	ジオラマ・レプリカ・模型等の活用は他の博物館でも人気の高いコンテンツの一つで、目玉となりうる。例えば、宇和島御城下絵図を活用した町並みの復元や、幕末の造船プロジェクトの様子の復元、前原巧山が最初に作ったといわれる模型（からくりとして楽しめるもの）の作成、花菱月丸扇紋時絵女乗物のレプリカ（中に入って写真が撮れる）等を検討してみてください。また、画像史料の積極的活用されたい。
市の対応	現在の博物館の一番の魅力は本物の資料が見られることですが、それだけにとどまることなく、最新技術を活用した映像化や模型、参加体験型等のレクリエーション要素に近いものを利用しながら、わかりやすく、より親しみを持っていただくよう工夫してまいります。	
その他		

NO.4 「6 新博物館の基本方針②資料の収集、保管及び研究」について

意見等の概要	1	学芸員またはそれに準じる専門職員は十分な数の確保を願います。
市の対応	資料の収集、保管及び研究という、博物館本来の役割を担当するのは学芸員という専門職になります。魅力的な博物館活動を展開するためには、学芸員の豊富な知識や経験が必要となります。計画的に優秀な学芸員を確保・育成し、必要となる人員を配置していきたいと思っております。	
その他		

NO.5 「6 新博物館の基本方針③情報の発信と連携」について

意見等の概要	1	宇和島市に限らず旧宇和島藩全域の連携（特に教育分野）をぜひ検討ください。急速な人口減少の中、南予広域での取り組みの重要性はますます高まっていくと考えます。
市の対応	宇和島藩及び吉田藩の領域は、御承知のとおり現在の宇和島市だけではないことを意識し、基本計画案においては「宇和島圏域全体の歴史文化」という表現にしております。伊達文化を継承する歴史系博物館として、宇和島市立の博物館ではありますが、枠組みにとらわれず、旧宇和島・吉田藩領であった他の市町にも情報を発信し、連携を図ってまいります。	
その他		

NO.6 「6 新博物館の基本方針④教育普及」について

意見等の概要	1	小中学生等が郷土学習をすることができるスペースがあるといい。
	2	歴史講座や文化体験教室を開設してもらいたい。
	3	ボランティアガイドを増やして、市民みんなで参加するとよいのでは。
市の対応	生涯学習へのアプローチや学校教育現場への郷土学習の導入につきましては、可能な限り取り組んでいるところですが、特に博物館に限定しますと、例えば研修室がない等の設備上の問題で対応が困難な場合が多々あります。新しい博物館ではそのためのスペースや設備を整備し、歴史愛好家への市民講座や子ども向けの体験教室といったソフト事業やボランティアガイド、博物館友の会等について積極的に検討していきたいと考えております。	
その他		

NO.7 「6 新博物館の基本方針⑤施設の安全と管理」について

意見等の概要	1	新しい博物館は、バリアフリーで歩きやすく見易く、トイレの数も充実させて欲しい。1階だけでなく、各フロアにあった方が良い。
市の対応	<p>高齢の方や障がいをお持ちの方、小さなお子様連れの方、外国の方など、色々な方が来館されることを想定して、ユニバーサルデザインに配慮し、すべての人が安心して快適に利用できる施設を目指します。</p> <p>特にトイレは、予測される利用者数から適正な器具数を各階に設置するとともに、多目的トイレや授乳室も整備してまいりたいと考えております。</p>	
その他		

NO.8 「6 新博物館の基本方針⑥建設手法とコスト意識」について

意見等の概要	1	開館後の収支計画は概算だけでも必須だと考えます。
	2	博物館を拠点交流施設などの多機能化する計画となっているが、運営・管理の複雑化と人件費等の経費の増加についての検討がなされているのか。ハードの仕様を決める前に運用制度を固めなければ使い勝手の悪い施設ができる危険性が高い。観光交流拠点とするのであれば市内の観光関連施設の連携組織を作り、国等の助成金、補助金を受けやすくすることを視野に入れた運営を考えてほしい。
市の対応	<p>建物の維持管理費用は同様施設の延べ床面積等から想定しておりますが、建物の仕様が決まってないため、現段階では概算となっております。詳細な数字につきましては今後の設計業務において算出できると考えておりますが、いずれにいたしましてもコストをしっかりと意識しながら取り組んでまいります。</p> <p>また、御指摘のとおり開館後の運営形態を想定しながら設計することが理想ですが、運営形態や必要な人員等については今後の検討課題となっております。こちらにつきましてもできる限り早く想定し、効率的な設計を進めたいと考えております。</p>	
その他		

NO.9 「7 新博物館の展示計画」 展示スペースについて

意見等の概要	1	常設展示+企画展示合わせて700㎡だと今までの企画展示室よりもボリューム的に見おとりしてしまうのではないかと。
	2	現在の伊達博物館は展示室のスペースが狭く、多くの資料を展示できない。今の倍以上のスペースが欲しい。
市の対応	展示スペースの検討につきましては、文化財保護の観点から実物資料を休ませながら展示すべきこと、建設事業費、必要となる学芸員の人件費を含んだ維持管理費といった持続可能性を考慮した結果、常設展示室、企画展示室をあわせて700㎡として計画しております。これは現在の伊達博物館の展示スペースと同等で、企画展示室部分は現状より狭くなりますが、現在の博物館は構造上の問題により展示ケースの配置にロスが多く、新しい博物館ではこれらを合理的に配置することによって、現在の伊達博物館以上の展示内容を確保できると見込んでおります。	
その他		

NO.10 「7 新博物館の展示計画」 展示内容について

意見等の概要	1	企画力がもの言う良い展示であれば遠くからでも人は来ると思う。学芸員の方を育て、魅力ある展示にしてほしい。
	2	吉田伊達文化・歴史に関する展示を実現できるようお願いします。
	3	「吉田、三間、津島も含めた・・・」とありますが、「宇和島藩領」の範囲も含めたりともっと広くするのもよいと思います。
	4	吉田・三間・津島に関する展示は十分に出来るのか。
	5	宇和島圏域の歴史文化を紹介する展示を目指すのであれば、宇和島伊達家だけでなく、それ以前の戸田氏、藤堂氏、富田氏のこととも紹介するような展示や、他県にない牛鬼や宝多、鹿踊りなども忘れずに紹介してほしい。また、宇和島藩と吉田藩双方のことがわかるような展示も作ってほしい。

	6	現博物館の展示は幕末がメインになっており、宇和島藩祖の伊達秀宗の展示が少ない。秀宗の出生や大阪での日々など、しっかりと紹介するような展示を作って欲しい。個人的には銅像も建てて欲しいくらいである。
	7	「宇和島の歴史」とありますが、伊達家以前や以後の歴史も意図的に重きをおいて下されば見応えのある展示になると思います。
	8	伊達博物館で宇和島にゆかりのある文学者を紹介できれば、更なる集客が見込めるのではないだろうか。
	9	別府の地獄巡りを考案した油屋熊八や、山下汽船の山下亀三郎、大正期に活躍したデザイナーである高島華宵、医学博士の岩村昇など、宇和島出身の偉人を簡単に紹介するような展示があったら良いと思う。
	10	宇和島には幕末から明治初期に活躍した偉人（伊達宗城をはじめ、児島惟謙、穂積陳重、大和田建樹など）がたくさんいる。そういった人達を紹介するスペースが欲しい。
	11	宇和島の地勢・自然・産業について、現在とのつながりを意識した展示内容の検討してはどうか。
市の対応	<p>現在の伊達博物館の展示は、大名家としての宇和島伊達家に特化した内容となっておりますが、基本理念として「地域の歴史文化の再生、共創の象徴となるべき博物館」を掲げているとおり、新しい博物館は旧宇和島市や宇和島伊達家にまつわる資料だけではなく、吉田・三間・津島の旧三町の歴史文化を包括した展示内容に再構築していくことを目指しております。</p> <p>具体的な展示構成につきましては今後の検討課題ですが、いただいた御意見等も参考にしながら、旧三町の歴史文化はもとより、伊達家入部以前の歴史や宇和島にゆかりのある偉人の紹介等を通じて、宇和島全体をわかりやすく、より興味深く紹介する役割を担いたいと考えております。</p>	
その他		

NO.11 「7 新博物館の展示計画」 常設展示室について

意見等の概要	1	新設の1階常設展示室には実物は展示しないのか。宇和島に足を運んでくれる方であれば、宇和島の総合ガイダンス的な内容は、事前に調べている場合が多く、常設展示は歴史・文化の中核的専門施設だからこその内容とすることで、それらと区別し、有料化した方が良いのでは。
市の対応	1階部分の常設展示がある交流ゾーンにつきましては、市民や観光客の皆さまに日常的に御利用いただくために、現段階では無料を想定しております。一方で、博物館ゾーンにある企画展示は有料を想定しておりますので、無料である1階部分で完結してしまわないよう、1階部分で環境に影響されにくく複数ある実物資料を展示するなどして、企画展示もあわせて鑑賞したくなる仕組みを考えていきたいと思えます。	
その他		

NO.12 「8 新博物館のゾーニング」 建物の構造について

意見等の概要	1	デッドスペースの無い構造で作って欲しい。構造を奇抜にして展示スペースが減ってしまっては意味がない。
市の対応	建物本体の設計につきましては、デザイン性とともにも博物館本来の役割を担うための機能性も重要視してまいります。特に展示室につきましてはスペースが限られますので、動線や展示ケース等にも十分気を配り、効率的な配置を目指してまいります。	
その他		

NO.13 「8 新博物館のゾーニング」 建物の高さについて

意見等の概要	1	「地盤面より5m以上に設置」とありますが、資料はデジタルで撮影し、再生のできるように、別の高い所に保管して安全策をとってはどうか。
	2	もっと高さを上げたら良いと思えます。3階までを駐車場にしたらいかがでしょうか。

市の対応	<p>資料はもとより、職員や来館者の安全を確保するためにも、津波や地震への対策は必要であると考えております。具体的には、地盤の改良、想定される津波浸水深の5メートル以上に資料を展示・収蔵すること、耐水性のある収蔵庫の導入等を検討しております。ほかにも先進事例等を参考にしながら、可能な限り安全対策に努めたいと考えております。</p> <p>駐車場の配置を含め、現段階では何階建ての建物になるか決まっておられません。隣接する天赦園からの景観への配慮により、あまり高くすることは想定しておりませんが、なるべく高い階数に資料を展示・収蔵することが望ましいと考えております。</p> <p>資料のデジタル化につきましては、資料を移動させる際もしくは新博物館移管後に、デジタルアーカイブすることも検討しております。</p>
その他	

NO.14 「8 新博物館のゾーニング」公開承認施設の必要性について

意見等の概要	1	<p>企画展示室を「公開承認施設仕様」とするメリットが国宝・重文展示の際の手続き上の勝手の良さしか分からない。資料のために良好な展示環境であることはもとより必須で、その上での必要性及び費用とのバランスはどうか。</p>
市の対応	<p>御指摘のとおり、貴重な資料を継承していくためには公開承認施設の許可を得なくても、同等の施設整備は必要であると考えます。しかしながら、新しい博物館の安全性が懸念される中、文化庁からの指導等による良好な展示環境や安全性を確実に担保するため、公開承認施設仕様を目指してまいります。</p> <p>また、公開承認施設のメリットといたしましては、国宝・重要文化財展示のための手続き簡素化だけではなく、資料を借用する際に所蔵元への信頼性が増すことにもあります。新しい博物館では国宝や重要文化財を積極的にお借りし、それらの展示を中心とした特別展等も開催したいと考えております。</p>	
その他		

NO.15 「9 新博物館の規模」について

意見等の概要	1	休憩スペースにはソファを置きカフェスペースにしてもらいたい。
	2	新しい博物館は、晴れた日は屋上やテラスが利用でき、そこから宇和島城が眺めることが出来れば良いと思う。フロアにカフェのような場所があれば、宇和島城を眺めながらお茶を楽しむことが出来て良いと思う。
市の対応	新しい博物館を訪れた方になるべく長く、くつろいで滞在していただくために、休憩スペース等の充実は重要だと考えております。設計段階で配置や意匠に工夫を凝らし、サービスの充実も努めながら、誰でも気軽に憩うことのできる開かれた博物館を目指したいと考えております。	
その他		

NO.16 「10 立地」について

意見等の概要	1	天赦公園内に移転することに大賛成である。現在地は手狭で今後想定される災害に対しても心配である。
	2	天赦公園は多くの人を使用しています。地域住民にとって季節による樹木のうつろい等により、癒やしを感じることができる、市街地にある大切な緑地です。 また、災害時における火除地としても必要最小限の広さです。現在地に博物館を設けて、公園の広場は今のまま残すよう希望します。
	3	博物館を公園に建て替えるのは反対です。今の所に建て替えてほしいです。宇和島に唯一ある広場は火除地としてそのまま置いてほしいです。大人も子供も利用している公園をつぶさないで下さい。災害もだんだん大きくなって来ています。市民の為を思うのならどうか今の所に立て替えて下さい。公園に居られる人に聞いても皆反対でした。

4	<p>宇和島で一番水のたまる場所といわれる場所に、なぜ伊達博物館移築の案が出たのか理解に苦しみます。</p> <p>広く見通しが良く、多くの市民が憩える場所であり、子ども達がキリン公園と親しく呼び、自由に遊べる場所に博物館を移築しないで下さい。旧宇和島市内のほとんどの幼稚園・保育園の運動場は狭いので、どの園もキリン公園へ子ども達を伸々と遊ばせるために連れ来て遊んでいます。さえぎる物なく、見通せるので、親も安心して子どもを見守れます。中高生も色んな運動や遊びをしています。</p> <p>いままでの市政のほとんどが、でき上がってから市民に知らせ、今回の博物館の説明会も「皆さまの声を聞かせて下さい」と言いながら、「どうせ決まってるんだろう」と参加者は少なかったです。</p> <p>博物館は現地で改築して下さい。現地で改築する案に賛成する署名 261 名とともにお届けします。</p>
5	<p>想定外の津波が心配です。丸之内 J T 跡地または丸穂の短大跡地など高台に移動した方がいいのではないのでしょうか。</p>
6	<p>天赦園と同じ敷地内に博物館ができることは良いことだと思います。現在の建物が何の建物なのか、市外の方は分かりづらいと思います。大通りに沿ってできるのも分かりやすいです。</p>
7	<p>大雨・津波での浸水被害を避けるには、計画の場所では非常に問題が多い。また、移転コストを軽減できる今の案の場所がベストとのことであるが、建築・維持コストと文化財保護を比べた場合、あまりにも災害リスクや管理リスクが大きすぎる。「受け継がれた大切な資料をしっかりと守る」とのことであるが、計画案の場所でそれがかなうのか大いに疑問である。</p>
8	<p>視認性が向上するとしているが、視認性にだけに限れば、計画地より短大跡地の方がはるかに好立地である。ランドマークとして機能するとのことであるが、宇和島城があり他に必要はなく、今のままで充分である。観光客から宇和島には「宇和島城があるよね」とは言われようが、「伊達博物館があるよね」とは言われるはずもなく、今後とも言われないと考える。</p>

	9	休館期間を最小限に抑えられるとしているが、来館者数や観光客数が公表されておらず詳細は不明であるも、休館した場合においても収入や来場者数への影響は総事業費と比較すれば非常に軽微であろうと考える。
	10	移転のメリットしか計画案には説明していないが、デメリット等はないのか。
	11	天赦公園 B 案は南海トラフ地震を考えると、今よりも更に海側に建築するのは更に危険が伴うし、5 m 上げるのはデザインを制限されるうえ、搬入搬出の大きなシステムや防水対策が必要になる。また、車の両出入口は、片側一車線の国道 56 号線沿いに面し、渋滞の原因となりうるし、学生達の通学路を遮断する事になる。代替案として、J T 跡地（現宇和島城整備事務所）が良いと思います。
市の対応	<p>立地の選定につきましては重要な課題でありましたので、建替委員会内に専門部会を設置し、協議を進めてまいりました。立地の条件を整理する上で、都市再生整備計画事業活用のため都市誘導区域内にあること、宇和島を代表する歴史文化施設として「伊達文化エリア」にあるべきこと、まとまった敷地面積が必要であること、多く市有地を含むこと、といった現実的な条件を整理していった結果、現博物館敷地である A 案と、天赦公園内に移設する B 案で比較することとなりました。</p> <p>なお、御意見としていただいております J T 宇和島営業所跡地につきましては、国指定史跡「宇和島城」を構成する文化財として指定されていることから文化財保護法が適用されます。そのため建設用地として利用できず、候補として除外されております。</p> <p>この A 案、B 案の比較検証については、16 項目に分けて行いました。移転した場合の B 案の主なメリットとして、天赦公園内に移設し伊達文化エリアを再構築することによって、基本理念である「新しいまちづくりと景観の美しさの象徴となるべき博物館」をより具現化できること、現在の博物館をできるだけ開館しながら建設することができること、資料を仮保管場所に移転することなく 1 回の引っ越しで完結できるといったスケジュールやコスト面での優位性があること、工事期間中の周辺住民への悪影響が少ないこと等がありました。</p> <p>一方で、現地建て替えの A 案のメリットとして附帯集客施設誘致について法令上の制約がないこと、B 案と比較して災害の安全性が高いことがあげられましたが、附帯集客施設の誘致についてはそれを想定しておらず、災害の安全性についても A 案と B 案の標高はほ</p>	

	<p>ほぼ同じで、直線距離で200メートルしか離れていないことから、B案のメリットを覆すほどの安全面での優位性はないとされ、天赦公園内に移転して建て替えることが望ましいという内容の答申が専門部会から出されました。</p> <p>B案における安全面については建替委員会内でも懸念され、引き続き協議検討されました。地盤の脆弱性については既存データの分析により、地盤改良は必要かもしれないが十分に建設が可能であること、復元性のない貴重な資料は想定される津波浸水深の5メートル以上に展示収蔵すること、耐水性のある収蔵庫の導入等により一定の安全性を確保できるといった検討結果により、令和元年10月30日に開催されました第4回建替委員会で、B案のとおり天赦公園内に移転することが採択されました。なお、答申には附帯として「天赦公園内に建設するにあたり、日常的に同公園を散策するなどして利用している市民の利用形態を鑑み、天赦園及び天赦公園と一体化された、開かれたスペースとして、それぞれが相乗効果を発揮できる配置や意匠の工夫がなされるべきである。」との進言がありました。</p> <p>天赦公園内に移転するという事を公表してからは、日常的に天赦公園を利用されている皆さんから公園として利用できなくなるのではないかと心配の声が多くとどけられました。そういった御意見を強く意識しながら配置を検討していった結果、新しい博物館の建物本体を天赦公園内の西側に配置したプランとなりました。これにより、心配の声を多くいただいた天赦公園の芝生部分については、ほぼ現状の広さを継続して確保できる見込みとなっております。建設予定地には、現在は滑り台等の児童遊具がありますが、これにつきましては、工事期間中は「緑の広場」内に仮設し、現博物館取り壊し後は、現博物館敷地内に児童公園を設置することとしており、いま天赦公園が持っている公園機能は、最終的にはほぼ失うことなく計画を進めていくことができると考えております。</p> <p>公園の形態が変わってしまうこと、工事期間中は不便になってしまうことについて御迷惑と御心配をおかけします。今後とも、皆さんにとって使いやすい公園のあり方を考えながら進めて参ります。町の中に緑や皆さんが憩える空間を残していくことは間違いありませんので、御理解いただきたいと思っております。</p>
その他	

NO.17 「11 配置計画」緑の広場について

意見等の概要	1	新しい博物館が天赦公園の芝生と一体となる風景になればと思う。天赦公園の緑の広場は普段は子どもたちが遊べる場にして、博物館のイベント等でも活用してはどうか。
市の対応	現在の計画では「緑の広場」が新しい博物館に隣接することとなります。一時的にその空間を活かした博物館活動を展開することで、天赦園を含めた伊達文化エリアとしての情報を発信し、にぎわいの創出につなげるよう工夫してまいります。	
その他		

NO.18 「11 配置計画」新博物館からの眺望について

意見等の概要	1	新しい博物館から天赦園も望むことができるようにしてもらいたい。
	2	天守がよく見えるように木を切ったらどうか。
市の対応	新しい博物館から宇和島城への眺望につきましては、空中撮影等による調査の結果、設計上の工夫により確保できると判断しております。また天赦園への眺望も検討してまいります。 現在、城山内では倒木や落枝の恐れがある樹木を中心に、伐採又は剪定作業を進めています。今後も必要に応じて文化庁と協議のうえ、国史跡としての文化的価値を損ねることなく、博物館のみならず周辺からの景観にも配慮しながら実施したいと考えています。	
その他		

NO.19 「11 配置計画」トイレ設置について

意見等の概要	1	「緑の広場」の新博物館と反対の道路交差点側に1ヶ所、児童公園側にも1ヶ所それぞれトイレを設置しては。
市の対応	お見込みのと通りの検討を進めております。特に児童公園側（現博物館敷地）にトイレがない場合は市道を横断しなければならなくなるため、小さなお子さんの安全性の確保のため児童公園側のトイレの必要度は高いと考えております。	
その他		

NO.20 「11 配置計画」モニュメント等について

意見等の概要	1	宗城と西郷が会見した地について現在説明する看板が立っている。幕末の薩摩藩と宇和島藩の数少ない交流の証として、今後もきちんと残すようにして欲しい。今以上に目立つ看板や、石碑を建てるなりして、もっと目立つようにして後に残すべきである。今は道路で挟まれて間近で見づらいので、安全に近くまで歩けるように区画整備して欲しい。
	2	博物館の裏手にある松根東洋城の句碑については残すべきであり、できることなら句碑の文字を白抜きにするなどして、もっとはっきり読みやすく、見やすくするべきだと思う。
	3	天赦園入口付近の三差路の環境の悪さが気になります。内子町の白壁の街並み、西予市卯之町の歴史建築群、禰原町の国道を拡幅した新しい感覚の街並みなどを見ると、歴史ある天赦園周辺も、かくあるべきかと思いつきます。建物を移設して、佐伯町側の道路を拡幅する必要があるかと存じます。将来、新博物館や天赦園、会見の松から偕楽園及び児童公園を散策するにはやはり、気になる場所ではないでしょうか。
	4	伊達宗城公の銅像は動かさないという説明だったが、新博物館に移すべきと思う。偕楽園がどんな園になるのかわからないが、現在の場所だと子どもや母親が見るくらいで観光客にはほとんど目に入らないと思う。再考をお願いします。
市の対応	<p>天赦園等を含む伊達文化エリアを再構築し、その魅力を向上させるためには、御指摘のとおりモニュメント等の配置にもよる、文化エリアとしての雰囲気醸成が非常に重要であると認識しております。</p> <p>今後の設計業務におきましては、建物本体だけでなく、周辺のデザインや安全性への配慮を含めた提案を受けることとしております。設計者のアイデア等も活かしながら、宇和島伊達文化を感じることのできる、魅力あるエリアにしていきたいと考えております。</p>	
その他		

NO.21 「11 配置計画」 駐車場等の安全確保について

意見等の概要	1	安全上の配慮として、南中側の国道からの出入りをできなくするか、関係車両のみとし、一般来場者は東校側もしくは現伊達博物館側からとすべき。また、施設運営上も来場者の導線を複雑化しないほうが、管理が簡素化できる。
	2	天赦公園西側の国道 56 号は渋滞することが多く、その道路に接して駐車場を整備することは望ましくないのではないか。 駐車場から北側に出ること、南側から駐車場に入るとは、交通量が多いところに渋滞を発生させる可能性がある。
	3	児童公園から駐車場へ直接子どもが飛び出さないようフェンスや通路を考慮してはどうか。
市の対応	駐車場の配置につきましては今後の課題としております。設計業務において、いただいた御意見も参考にしながら、安全性や利便性を確保できる駐車場の配置を検討してまいります。	
その他		

NO.22 「11 配置計画」 天赦園への出入り口等について

意見等の概要	1	天赦園と公園との境が現在の塀のままでは天赦園が隔離されている感じがするのでは。新博物館側から天赦園への出入り口があればよい。
市の対応	<p>現在、天赦園と天赦公園は緑色に着色されたブロック塀によって隔てられていますが、この塀につきましては、公益財団法人宇和島伊達文化保存会との協議のもと、新しく雰囲気のあるものに改めることを検討しております。</p> <p>出入り口につきましては、天赦園と天赦公園の間に通用口を設ける予定としておりますが、天赦園自体の受付入り口は、天赦園の管理者である公益財団法人宇和島伊達文化保存会の意向により現状のままとなる見込みです。</p>	
その他		

NO.23 「12 事業スケジュール」について

意見等の概要	1	現計画では建設設計と展示設計が同時進行する形が想定されている。コンテンツと建設とのすり合わせが不十分であることによる失敗の例あるが、大丈夫か。
市の対応	建物本体と展示の設計については同時である事が望ましく、多くの事例においても同様の手法がとられております。業務発注時には、参加資格としてある程度の実績を求めることとしており、また仕様書の中に文化庁との協議や定期的な工程会議の開催を求めることで、御指摘の懸念を解消していきたいと考えております。	
その他		

NO.24 基本計画（案）に関すること 計画全体への賛同について

意見等の概要	1	現在の計画案に賛成である。
	2	事業基本計画（案）には賛同します。
	3	計画（案）に大いに賛成です。
	4	計画案については賛成です。
	5	費用の事もあがるが全国から観光客が見に来たくなるような日本有数の立派な博物館にして欲しい。
市の対応	計画案に対し御理解いただきありがとうございます。今後とも皆さんの御期待に添えられるようしっかりと取り組んでまいります。	
その他		

NO.25 改築事業に係る要望 売店・喫茶店等について

意見等の概要	1	特産品やグッズ販売に力を入れて欲しい。
	2	伊達博物館でしか買えない、おしゃれな限定ミュージアムグッズを製作し、販売して欲しい。

	3	<p>グッズの種類を増やして、宇和島をアピールしてほしいです。市外、県外にいる出身者は宇和島のものをとても懐かしく思う方も多いので、思い出せるお土産等が購入できるショップも作ってほしいです。</p>
	4	<p>観光拠点として、民間を活用しての運営を工夫し、地域振興に貢献すべきである。例えば、民間委託により土産品を工夫し、それを販売することにより周辺産業の経済的活性化に寄与する。</p> <p>また、城を眺望できる屋上は喫茶スペースとして賃貸し、賃料収入によりランニングコストが軽減でき、雇用創出等の経済効果も見込める。屋上はペット同伴可能エリアとするなど特異性を持たせると良いかもしれない。喫茶利用者には入館料を割引するなどすれば、博物館との相乗効果も期待できる。</p>
市の対応	<p>ミュージアムショップや、取り扱う独自商品の充実は、博物館の魅力を上昇させるためにも重要であると考えております。来館者への満足度向上のためにも積極的に取り組んでまいります。</p> <p>また、販売所等の民間への委託や賃貸等もあわせて検討してまいります。</p>	
その他		

NO.26 改築事業に係る要望 イメージキャラクターについて

意見等の概要	1	<p>県各地の博物館には、それぞれPR用のキャラクターを設置しPRしている施設も多い。宇和島市の観光キャラクターであり、「伊達」の文字を冠にしているのだから、「伊達にゃんよ」を博物館のPRキャラとしてもっと活用して欲しい。</p>
市の対応	<p>多くの博物館・美術館において、親しみをもってもらうため、また認知度向上のためのイメージキャラクターが導入されております。</p> <p>新しい博物館におきましてもイメージキャラクターはもとより、愛称、キャッチコピー、シンボルマーク、ロゴ等を導入し、新しい博物館のイメージを向上させるためのブランディングを検討していきたいと考えております。</p>	
その他		

NO.27 改築事業に係る要望 木材の利用について

意見等の概要	21	<p>宇和島市の森林の木は、すでに平均でも50～60年生に育っており、利用可能な状態になっています。中高層の建築物を、木材を使って建設する技術が進んでおりまして、愛媛県内でも製造しているCLTという、スギやヒノキの板を直交に重ねてパネル状にした木製品は、強度も高く、構造用としても使用できるものであります。</p> <p>近年、気候変動や自然災害の多発を背景に、世界的に注目度が増している持続可能な開発目標（SDGs）の達成や、地球温暖化防止の観点からも、二酸化炭素を吸収・固定する木材を活用することは、地球に優しい取組みといわれており、この地域で育てられた木材を使った博物館にしていきたいと思っております。</p> <p>また、鬼ヶ城山系には、江戸時代に宇和島藩によって植林された藩政林があり、100年生を超える巨木になっているのではないかと思います。宇和島藩土が植えた木を伊達博物館に使うことは、歴史を語るうえでも、縁をつなげるという意味でも、大切なことだと思いますし、昔の人も喜ぶのではないかと思います。</p>
市の対応		<p>宇和島市では県産材・地域産材を活用した公共建築物の木造化・木質化を推進しております。</p> <p>博物館においては、耐火耐震構造が求められること、木から発生するガスやCLTに由来する化学物質等に配慮する必要がある、といった課題も残りますが、施工技術の発展によりRC造等との組み合わせによる中高層建築も可能となっていることから、CLTをはじめとする木造化・木質化を積極的に検討してまいります。</p> <p>また、宇和島藩の奨励により植林された藩有林は、現在、国有林として鬼ヶ城山系の中に存在しております。主に植林されたスギ・ヒノキ等の樹齢は100年を超えており、木造建築物の主要部材として適しております。今後、国有林を管轄している森林管理署等と協力しながら、積極的な活用を検討してまいります。</p>
その他		

NO.28 その他 街なみ保存について

意見等の概要	1	今となってはもう後の祭りだが、宇和島の素敵な街なみ建物を残しておけばよかったと思う。
市の対応	現在の博物館は児童公園設置のために解体を予定しておりますが、周辺には伊達家の家紋入りの笠木が乗っている塀や門、資料を保存している伊達家所有の蔵等があります。当地一体が伊達家の御殿であったことを偲ぶためにも、なるべく保存しながら活用したいと考えております。	
その他		

NO.29 その他 ふるさと納税等について

意見等の概要	1	市民からのクラウドファンディングや地元企業との連携もぜひご検討ください。
	2	ふるさと納税やクラウドファンディングを通じて、市内外からも博物館の運転資金を回収するような仕組みはつくれないだろうか。
市の対応	ふるさと納税等については、財政的なメリットはもとより、御協力いただいた皆さんの当事者意識や新しい博物館への愛着を喚起するためにも効果もあると考えられるため、今後積極的に検討してまいります。	
その他		

NO.30 その他 各施設との連携について

意見等の概要	1	吉田の歴史を伊達博に展示してもらうのはいいことであるが、国安の郷の展示品が伊達博へ展示されて国安の展示物が減ってさみしくならないか。
	2	現在、伊達博物館と天赦園の共通券はあるが、それに今後、宇和島城や吉田町の国安の郷等も加えることは出来ないか。

市の対応	<p>新しい博物館は、旧宇和島市や宇和島伊達家にまつわる資料だけではなく、吉田・三間・津島の旧三町の歴史文化を包括した展示内容の再構築を目指していることから、国安の郷をはじめとする他の文化施設等で収蔵している資料の一部を、新しい博物館で展示することは想定されますが、同様施設での展示資料が極端に減ることはないと考えます。今後は文化施設相互の連携をより一層進め、それぞれが相乗効果を得られるよう努力してまいります。</p> <p>各文化施設との共通券につきましては、愛媛県観光物産協会等の第三者が発券しているものはありますが、対象となる各文化施設で直接販売している共通券はありません。各文化施設で販売できる共通券を望む声もありますが、施設管理者や料金体系の違い、会計上の問題等により実現にいたっておりません。共通券の導入につきましては今後とも検討課題とし、各施設の利用者の増加や施設の魅力を増やすため工夫や検討を継続してまいります。</p>
その他	

NO.31 その他 新博物館改築の是非について

意見等の概要	<p>1</p> <p>文化財を守るということは賛成だが、現在の宇和島市の状況では計画で示された費用や時間、エネルギーをかけている場合ではないと考えます。</p> <p>文化財を自然災害から守るということで、かさ上げの不要な5 m以上の場所を選定して保管庫のみを建築し、博物館は耐震補強工事のみで対応すべきであり、今現在、お金とエネルギーをかける方向は宇和島が活性化して、外部から人とお金が流入してくることで。</p>
	<p>2</p> <p>伊達博物館改築のために、大金を使用する価値はありません。そのお金で子供達の遊び場、大人も一緒にくつろげる場所のために使って下さい。博物館は40年程度しか使用してないのでまだ十分に使えますし、大雨や台風による浸水の恐れはありません。税金をもっと市民の役立つ物に使って下さい。</p>

	<p>3</p> <p>すでに何年もの間、「伊達文化」をいわば観光等の売りにしているものの、知名度は上がっていない。それよりも当地域の養殖、みかん・真珠をアピールすべきであり、この産業立て直しをもっと強力に推進すべきである。建設に補助金が見込まれるとのことであるが、今の時期に箱モノに頼るべきではない。天赦園や博物館にどれほどの観光客が来場し、地域の賑わいに貢献しているかと考えた場合、伊達博物館を改築することで地域貢献に役立つとは到底考えられない。多様化した価値観や生活様式の社会では、ネットを活用し、来場しなくても十分に楽しめる環境を整備し、その後さらに伊達文化に興味を持った観光客のみを誘致したので十分であり、まずは箱を作って当てもなく賑わい創設・観光客誘致をする発想は既に時代遅れである。市民は「そんなものに金かけるより」とか「そもそも興味がない」とか冷めた意見があると考えるが、それはなにより今の生活をどうするかが大事で、「伊達博物館の改築」に関心がないことの表れであり、莫大な費用をかける説得力がない。人口減が激しい当地においては、そもそも大きな箱モノは必要ない。それよりも、将来の宇和島を背負って立つ子供たちが安心して遊べ、市民が集えることのできるセントラルパーク的なものを望む。上記により、文化財保護の観点から改築自体に異論はないが、規模の大幅な縮小と移転場所の再検討が必要であると強く考える。将来の維持管理費用にも莫大な出費が見込まれることから、展示に重きを置くのではなく、資料を残すことに重点を置いた、いわゆる郷土資料館的な施設で充分である。</p>
市の対応	<p>現在の博物館の課題として、南海トラフ大地震への耐震性が無いこと、収蔵庫が不足していること、文化財を公開する環境や機能が十分ではないこと、バリアフリー化されていないこと等があり、これまでも数回大規模改修を重ねてきたところですが、建物本体や設備の経年劣化が著しいことから改築する方針としております。</p> <p>新しい博物館の建設は、文化財を保護するだけでなく、歴史文化を継承しながら地域学習や観光の資源として活用し、地域振興に貢献するために必要な事業であると考えています。</p> <p>コスト意識には十分配慮し、いただいた御意見も参考にしながら「地域の歴史文化の再生、共創の象徴となるべき博物館」を目指してまいりますので、御理解いただきたいと思っております。</p>
その他	

NO.32 その他 植物園等の設置について

意見等の概要	1	<p>伊達博物館改築に合わせて、国際姉妹都市であるホノルル市のあるハワイをモチーフにした、熱帯植物園を併設する案です。現在、宇和島市には植物園がなく、市民の憩いの場となる場所も少ない。また様々な南国の植物を見学でき、教育的にも役に立つと思われる。そして、内外的にも宇和島市とホノルル市が姉妹都市であることをアピールできる。植物を通してホノルル市との交流がさらに深まる。そして、天赦園で日本の植物、熱帯植物園で南国植物と一度に二つの地域の植物を見学できる。</p>
市の対応		<p>博物館に隣接する「緑の広場」部分は、市民が憩える空間を確保するために、現段階では他施設の併設や開放感を妨げる植栽等は検討しておりません。</p> <p>ホノルル市をはじめとする姉妹都市との交流につきましては、1階交流ゾーンにおいて展示することを検討してまいります。また、宇和島伊達家には8代藩主伊達宗城がハワイ王国カラカウア王から頂戴した勲章も伝来しておりますので、この展示によってもハワイとのゆかりを紹介してまいります。</p>
その他		

NO.33 計画全体、その他 ドッグラン等について

意見等の概要	1	<p>伊達博物館改築に伴い、市民や観光客の交流出来るスペースが併設されることには賛成です。しかし、現在の天赦園公園も含め市内の公園はほぼ犬の立ち入り禁止となっています。(津島ドッグラン以外)多くの市町の公園や多目的施設では犬の散歩可能なエリアやドッグランの併設を見かけます。宇和島市観光の目玉ともなる施設であるならば、当エリアにもぜひとも散歩エリアもしくはドッグラン等の併設をお願いしたいと思います。</p> <p>以前、市役所の方から公園に入れないことについて、犬を嫌いな方もいることやマナーの問題等あり禁止していると聞かされましたが、きちんとしたルールやスペースの区分けを設けることにより、飼い主のマナー向上も図れ、共存も可能かと思えます。私も天赦園公園の近隣をよく愛犬と散歩しますが、多くの愛犬家を見かけます。</p> <p>ペットは家族と当たり前にいわれる時代です。ペット先</p>
--------	---	---

		進国に比べ日本はまだまだ後進国ですが、これを良い機会に宇和島市をペットと共に幸せに生活の出来る動物愛護先進の町であるとアピールも出来るのではないのでしょうか。
市の対応		<p>ドックラン等のペットと過ごすことができるエリアが限定されている実態は認識しております。</p> <p>ドッグランの併設及び公園内へのペット同伴の可否につきましては、天赦公園内での整備となり、敷地に限りがあることなどを考慮し、現時点では具体的に想定しておりません。</p>
その他		

NO.34 その他 宇和島ゆかりの芸術家との連携について

意見等の概要	1	<p>伊達博物館を取り壊す前に大竹氏の個展等を行ってはいかがか。大竹氏の作品は大きいものが多いが、取り壊す前の建物ならば、屋根から突き抜けるような作品でも作ってもらえそうである。伊達博物館の移転に関して、博物館に隣接して緑の広場が計画されている。そこにも大竹作品が設置されることを望む。また、新伊達博物館の内外にも大竹作品コーナーがあれば嬉しい限りである。</p> <p>伊達家の貴重な資料と現代美術の両方に興味ある人物を宇和島市に呼べる機会にもなるであろう。予算等の事情は把握できていないが、可能な限りお願いしたい。資金調達に関してはクラウドファンディング等の導入も可能かと考えられる。</p> <p>宇和島市民の豊かな感性を育み、世界に視野を広げるためにも、世界で活躍する大竹作品を鑑賞でき、本人と交流できる場の設定をお願いしたい。このことは、宇和島市の観光促進や発展にもつながること信じている。</p>
市の対応		<p>現在の伊達博物館のある一帯を、旧宇和島市街中心部にある風致・美観地区として整備するあたり、「緑の広場」や児童公園において宇和島にゆかりのある芸術家・美術家の作品を生かすことは、手法として検討の余地があるところだと考えております。</p> <p>なお、現伊達博物館の建物は、児童公園設置のため解体することとしております。解体前の活用につきましては、短期間であること、耐震性がないこと等により想定しておりません。</p>
その他		

NO.35 その他 地元企業への配慮について

意見等の概要	1	市のお金が中央に吸い取られないように、地元企業にお金が回る仕組みの構築をして頂きたい。改築事業に関わる費用に関して地元企業に優遇される仕組み、条件を考慮して欲しい。市のお金で県外や市外が潤う事無く、市内が充分潤うように要望いたします。
	2	設計者、施工業者の選定のおりには建設後を考慮して地元、近隣に事業所を有するものを。
	3	業者等の選定、発注において地元になんらかの貢献できるような考えを持って、その場限りの選定はしないようお願いしたい。
	4	公金で建設するのにあたり、地元市民に十二分なコンセンサスを取り、市民には親しまれ誇りに思われる施設となつて欲しい。その為にも 地材地建の考えはとても大切である。地元の材料をメインに、地元の優れた施工技術を駆使した建築であつて欲しいものです。
市の対応	<p>施工業者につきましては、建物の規模や技術的難易度、特殊性等を検討し実績等の参加条件を定めております。</p> <p>また、大規模な工事においては、地元業者と市外業者との共同企業体方式での発注を検討し、技術力の移転を図るなどの対策も講じているところです。</p> <p>いただいた御意見も参考にしながら、今後も地域経済の活性化や地元業者への配慮の視点を持って検討してまいります。</p>	
その他		

NO.36 その他 天赦園の付随施設について

意見等の概要	1	天赦園南側のレストランは必要か。必要であれば整備部分に含めてはと思います。
市の対応	<p>天赦園及び天赦園に付随する施設は、公益財団法人宇和島伊達文化保存会及び伊達家が管理する民有物になりますが、天赦園等を含む伊達文化エリアを再構築し、その魅力を向上させるために関係各位と連携を図り、協働してまいります。</p>	
その他		